事業報告　（令和７年４月１日から令和８年３月 31 日まで）

設立の目的及び概況

【設立の目的】

ヒロシマ平和創造基金は、人類最初の原爆の惨禍を体験した広島市民の平和への願いと使命感を高め、さまざまな平和活動および国際交流、協力活動などの推進や支援を目的に 2012（平成 24）年２月１日に一般財団法人として設立されました。同年８月６日に国から公益財団法人の認定を受け、平和及び国際交流活動に取り組んでいます。

【事業の概況】

ヒロシマ平和創造基金が取り組む事業は「平和活動」と「国際交流活動」の２つのカテゴリーに分かれ、７つの推進・支援事業を行ってまいりました。

「平和活動」は４事業。ヒロシマの心を視覚的にアピールするポスターを通じ国内外へ平和を訴える「ヒロシマ・アピールズポスター」、中国新聞社のヒロシマ平和メディアセンターと連携し行う「ヒロシマ情報の多言語発信」、県民の草の根的な活動を助成する「ヒロシマピースグラント」、そして「ひろしまフラワーフェスティバル」です。

もう１つの柱である「国際交流活動」は３つの事業から成ります。「国際交流フェスティバル（ぺあせろべ）」は、国際交流活動に携わる市民団体等と協力し、バザーや芸能、ゲームなどを通して広島在住の外国人と市民の交流を図る事業です。「ヒロシマ・スカラシップ」は音楽・美術・工芸等の芸術を学ぶ若者の奨励を目的とし奨学金を支給します。「国際交流奨励賞」は、国境を越えて地道な平和・交流活動を続ける市民団体や個人を表彰します。

「ヒロシマ情報の多言語発信」を除く６事業は、当基金の公益財団法人認定を機に財団法人広島国際文化財団の取り組みを引き継ぎました。本年 3 月の理事会で決議いただいた通り令和 8 年度以降は公益性と公平性を維持するため「国際交流フェスティバル（ぺあせろべ）」の主催を見送りますが、これからも同財団と連携しながら、平和につながる活動を積極的に推進、支援していきたいと考えています。

【実施事業】

1. 第 48 回ひろしまフラワーフェスティバル関連事業（４～５月）

広島市の平和大通りなどで５月３～５日の３日間開催され約 160 万の人出で賑わうひろしまフラワーフェスティバル」(FF)。コロナ禍明け３年目で通常開催の 2025 年は３日間で歴代５位の約 170 万人の人出で賑わった。当基金は花の塔およびフラワーキャンドルの設営、花のモニュメントの２事業を実施した。

２．ヒロシマ情報の多言語発信（通年）

中国新聞ヒロシマ平和メディアセンターのウェブサイトを通じて、2021～2024 年度に続き 2025 年度も閲覧数の多い英語圏の読者向けに、「ヒロシマ　ドキュメント」や「ヒロシマの空白」に関する記事と画像を英訳して情報発信した。また、被爆 80 年にあたり東京恵比寿の東京都写真美術館で開催されたマスコミ 5 社（中国新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、中国放送、共同通信社）による被爆 80 年企画展「ヒロシマ１９４５」の写真キャプションの一部にも当事業での英訳が活用された。今後も多言語発信事業を広く市民に知ってもらい、2014 年に創設した「平和サポーター寄付金制度」の寄付を受け付け、コンテンツの充実とより多くの情報発信を行う。

３．ヒロシマ ピースグラント 2025（６～７月）

1995 年の被爆 50 年を機に中国新聞社が寄託した基金をもとに広島国際文化財団が被爆体験の継承と平和創造のための活動を支援する目的で創設した助成制度で、2013 年度から当基金がこの事業を引き継ぎ、助成対象を公募している。31 回目（基金事業としては 12 回目）の 2025 年度は、国内外から 40 団体、２個人から申請があり、選考の結果、下記の 18 団体に助成金を贈呈した。

【団体】

▽NPO 法人セトラひろしま（広島市・若狭利康代表）▽アイダホ大学（米国・東條梓代表）▽三原市原爆被害者之会（三原市・苞山正男代表）▽朗読劇「蛍火」制作委員会（広島市・久保田美和代表）▽ヒロシマ「」継ぐ展実行委員会（東京都・久保田涼子代表）▽認定 NPO 法人ひゅーるぽん（広島市・川口隆司代表）▽インディアナ大学インディアナポリス校（米国・ハリス田川泉代表）▽広島文学資料保全の会（広島市・土屋時子代表）▽AOGIRI（兵庫県・貞岩しずく代表）▽「ヒロシマ通信」研究会（広島市・宇吹暁代表）▽River Do!川辺コンソーシアム（広島市・西川隆治代表）▽世界のヒバクシャと出会うユースセッション（呉市・瀬戸麻由代表）▽NPO 法人はだしのゲンをひろめる会（石川県・白﨑良明代表）▽陝川平和の家（福島県・イ・ナムジェ代表）▽「原爆ドームとヒロシマ」実行委員会（広島市・出山ひさ子代表）▽TEAACH Project（米国・宮本ゆき代表）▽広島 YMCA 専門学校（広島市・殿納隆義代表）▽核兵器廃絶をめざすヒロシマの会（HANWA）（広島市・足立修一・森瀧春子共同代表）

４．ヒロシマ・アピールズポスター2025（７～８月）

世界平和を希求する「ヒロシマの心」を視覚で訴えるポスターとして 1983 年に制作開始。公益社団法人日本グラフィックデザイン協会（JAGDA）と広島国際文化財団が共同で毎年１作品を制作。1989 年の７作目の後休止していたが、2005 年に再開し継続している。当基金は 2013 年度から事業に加わっている。

通算 29 作目となる当期は、東京都のアートディレクター北川一成（きたがわいっせい）氏が担当、タイトルは「ＰＥＡＣＥ」。平和とは何か、自問自答を重ね、生み出したのは白地の中心に「ＰＥＡＣＥ」の５文字を並べた作品。当たり前の日常こそが「平和」との思いを形にした。例年通り松井一實広島市長に寄贈した。また、７月 18 日～24 日に旧日本銀行広島支店で「ヒロシマ平和ポスター展」を開催したほか、被爆 80 年の節目の企画として当基金、広島国際文化財団、ＪＡＧＤＡが主催し７月 14 日～25 日に中国新聞社１階ロビーではアピールズポスター展を開催した。2025 年度作品を含む全 29 点を展示し 12 日間で約 150 人の来場があった。

５.ヒロシマ・スカラシップ 2025　海外留学奨学金・中村音楽奨学金（10 月）

広島県在住者または出身者で、海外や国内でさまざまな芸術の分野にチャレンジする若い芸術家たちに奨学金を支給する制度。助成対象は公募している。「海外留学奨学金」（音楽を除く芸術全般）と「中村音楽奨学金」（音楽分野に限定）の２部門があり、１人につき年間 36 万円の奨学金を最大２年間支給する。

海外留学奨学金＝分野は特に定めない。

2025 年度は５人の応募があり、中嶋聡仁さん(19)＝イギリス・ヨーク大学留学、映画・テレビ制作専攻が選ばれた。

中村音楽奨学金＝修学先は国内・海外を問わない。

2025 年度は 11 人の応募があり、新宮香月さん(27)＝チェコ・国立ヤナーチェク音楽アカデミー留学中、コントラバス▽原辺芽依さん(25)＝イタリア・トリノ国立音楽院修士課程留学中、ヴァイオリン▽樋口史都さん(29)＝ドイツ・ハンブルク大学日本学科交換留学中、音楽教育学―の３人が選ばれた。

６.国際交流フェスティバル「ぺあせろべ」（2025 年 10 月）

広島在住の外国人家族や留学生らと市民が集い、食や遊びを通して互いの文化に触れ、国際交流を図る狙いで 1984 年から開催。コロナ禍の 2020～2022 年は中止し、2023 年はサッカースタジアム建設のため会場・時期を変更、2024 年は会場・時期を戻し 10 月 6 日に中央公園広島城護国神社前広場(中区基町)で行った。2025 年は 10 月５日(日)に初の屋内会場となる広島駅南口地下広場で開催した。前年比 1 万人減の約 5000 人の来場にとどまり、ステージ参加は 10 団体、ブース参加は 20 団体となった。ぺあせろべ実行委員会メンバーの高齢化等で実行委員会の主たる団体が広島県建築士会となり、シロアリ予防ＰＲ、木造耐震模型や木のジャングルジム展示、防災ブレスレット作りなど建築士会ならではの内容が近年増加している。

７.国際交流奨励賞（2026 年１月）

平和創造の願いを実現するための国境を越えた地道な市民交流活動を奨励しようと 1998 年に広島国際文化財団が創設した表彰制度。ヒロシマ平和創造基金が公益財団法人に認定されたのを機に事業を引き継いだ。

2025 年度は 11 団体の応募があり、次の２団体、２個人を選んだ。

▽EGG 草の根国際交流会（三次市・神岡百合美代表）＝広島県北に暮らす外国人の生活支援や周辺地域と連携しての地域交流活動など多文化共生に寄与（35 年）▽広島 YMCA 専門学校（広島市・殿納隆義代表）＝広島に住むウクライナからの避難者の日本語学習ほか生活相談などの支援（３年）▽ヌルハイザル・アザム・ビン・アリフさん（広島市）＝マレーシア出身で広島大学へ留学中に被爆した南方特別留学生の供養と調査・発信。関係者の国際的ネットワークを形成（５年）▽才木幹夫さん（広島市）＝92 歳で広島市の被爆体験証言者に登録し被爆体験を修学旅行生などに継承(２年)。

３月３日に表彰式を行い、岡畠理事長から表彰状と奨励金を贈呈した。

以上